

## 大学院大学設置可能性調査事業の経過報告について

大学院大学設置可能性調査事業については、10月より事業に着手していますが、実際に当地域で模擬的な大学院大学を試行する事業が、委託先である事業構想大学院大学による説明会や研究員の募集等を経て、11月13日より始まりました。

この模擬大学院大学は、学校法人東教育研究団が運営する「事業構想大学院大学」の有する教育・研究プログラムを活用し「飯田市プロジェクト研究」として実施するもので、来年3月末まで研究員を対象にした教育・研究活動が当地域にて行われます。

事業実施にあたり、事業継承者、企業の開発部門の担当者、起業を目指す方などを対象に研究員を応募したところ27名の申請があり、大学の選考により15名の研究員が選出されました。研究員の構成は、男性11名、女性4名、世代は30代から60代、職業も会社役員、会社員、自営業者、NPO法人職員など、実に様々な分野の方々に参加いただいています。

事業構想とは、アイデアを生み、実現可能な計画へ発展させ、計画的に新しい仕組みをつくり動かすことです。このプロジェクト研究では、社会の変化などから事業の種を探し、アイデアを膨らませ、事業をデザインする教育研究プログラムを実施します。15名の研究員は、事業構想大学院大学教授の指導のもと、事業構想構築の基礎を学びながら、研究員同士や多彩なゲスト講師との議論を交えながら発想の転換を行い、所属企業の新規事業や地域の活性化など自身が実現を目指す事業の構想案を作成します。

高等教育機関の設置に向けては、今回調査する大学院大学も含め、設置方法、分野、実施主体など検討を要する事項が数多くあります。本市としては、模擬的な大学院大学の試行といった実証研究を通じて、研究員の実体験や教育・研究効果などその成果を踏まえながら、大学院大学の必要性や設置可能性の検証材料としていきたいと考えています。